【課程－2】

審査の結果の要旨

氏名　　横山　由美

本研究は、乳幼児期のダウン症候群の子どもを育てる母親が、どのようにダウン症候群を持つ子どもを受け止め、子育てをしているのかを明確にするために、グラウンデッド・セオリー・アプローチに準じた質的記述的研究を行い、下記の結果を得た。

1. ダウン症候群の乳幼児を育てる母親の子育ては、【育ての場探し】を中核カテゴリーとして、《納得のいく対応探し》と《はっきりしたことによる気持ちの切り替え》のカテゴリーで構成されていた。
2. 母親が子どもの障害を受け止めていくプロセスは、第 1 段階：子どものダウン症候群と向き合う、第 2 段階：混乱と動揺、第 3 段階：ダウン症候群ではない可能性を望む、第 4 段階：明確でないことによる「つらさ」、第 5 段階：はっきりしたことによる気持ちの切り替え、第 6 段階：ダウン症候群を覚悟する、の 6 段階であった。また、従来の障害受容過程における段階説には提示されていない段階（第 1 段階、第 4 段階、第 5 段階）があることが示された。
3. 疑いを知らされてから確定診断を告げられるまでの間の“疑いの期間”にも、子どもの障害を受け止めていくプロセスが進んでいることが明らかとなり、疑いを知らせる時と確定診断を告げる時を区別する必要があることが示された。また、“疑いの期間”が、母親の子どもの障害を受け止めていくプロ

セスにとっては重要な期間であり、かつ支援を必要とする期間であることが示された。

4. 確定診断は、母親が子どもの障害を受け止めていくプロセスの出発点ではなく、1つの転機となっていることが明らかとなった。
5. 母親の子どもの障害を受け止めている状態によって、子どもの発達を評価する視点、および【育ての場探し】の目的や育ての場への評価が異なることが明らかとなった。
6. 母親の子どもの発達を評価する視点、および【育ての場探し】の目的や育ての場への評価が、母親の子どもの障害を受け止めている状態をアセスメントする指標になることが示された。

以上、本論文は、質的記述的研究を用い、ダウン症候群の子どもを育てる母親の子育てのプロセスを記述することにより、母親がダウン症候群の子どもを受け止めていくプロセスと子育てのプロセスの関係性を明確化し、ダウン症候群の子どもを育てる母親に対する支援への示唆と課題を得た。本研究は、子育て全体を捉えることにより、これまで別々に捉えられてきた母親が子どもの障害を受け止めていくプロセスと子育てのプロセスの関係性を明確にした点で独創性があり、ダウン症候群の子どもを育てる母親の障害を受け止めている状態を評価する指標や具体的な支援を検討するための知見を提供できたという点で、実践的な有用性を兼ね備えており、学位の授与に値するものと考える。